

子どものあそび（第1報）

-----氷上あそび（アイススケート）-----

川上 琴美

(山梨学院短期大学)

1. 研究目的

子どもの「こころ」と「身体」が、「あそび」を通してよりよく発達するためには、指導者はどのような援助をしなければならないかについて検討を重ねている。

今回は、子どもの日常生活にあるあそびではない、「氷の上」という環境のもとでのあそび＝スケートを事例とし、よりよい心身の発達に結びつくスケートの初心者指導のあり方について研究を進めた。子ども達が、それまで経験したことのない全く新しい環境のもとで、自分自身の「心身の能力」をどのように展開していくかを検討することにより、氷上での指導者としての適切な指導・援助のあり方、特にその初期段階について焦点を絞り考察する。

2. 方法

1) 研究対象事例

①スケート教室幼児の部指導（平成元年～11年）

対象：年少組約5名、年中・年長組各約10名
山梨県スケート連盟普及部主催

②S幼稚園スケート教室指導（平成10年、11年）

対象：年中組約30名、年長組約30名

*保育科を主体としたスケート部学生の助力を得て、初心者指導を実施

2) 指導・援助の分析・検討

子どもの活動と指導者の援助状況を毎回観察ノートに記録した。記録の補助としてビデオを併用した。これらを整理分析し、子どもに対するよりよい適切な援助のあり方について検討した。

3. 結果

スケート教室の初心者指導のプロセスについて、①②の事例をまとめ、その概略を表に示した。初期段階は、氷上に立つことから自分で滑りカーブするまでの5ステップとなる。指導のポイントは、次のようになる。

- ①最初に、初めて氷にのる子どもに対して寒さと恐怖を取り除くことが必要である。子どもへの受容と共感。適切な靴・服装チェック。子どもと指導者の信頼関係。お互いの意思疎通。滑ることは楽しいことの伝達。陸上での入念な準備運動。楽しいペンギン歩き運動。

- ②初めての氷の上を、子どもが安全で楽しいと感じることが必要である。子どもが自分自身で氷上に出て立つ。怖がっている子どもは抱っこする。“いいよ”“頑張っているね”etc 子どもを受容する言葉かけが重要。ここでのポイントは、いつも子どもと同じ目の高さで目を見てあげることが重要。これは子どもが下を向かなくなり、滑る時の重心のバランスをとるカギとなる。
- ③子どもの体力とやる気の持続時間の考慮が必要である。体力や意欲にはかなりの個人差があるので、子どもの心身状態を見極める指導者の観察眼が必要。子どもの安全のために無理は絶対に禁物。
- ④氷に少し慣れてきた時が最も危険である。指導者は子どもから目を離さない。子ども達は少し滑れるようになると陸上での動きを氷上という特殊な環境を忘れて動こうとする。リンクでは走らない。奇声を発しない。ふざけない。広さを確保する。転んだらすぐ起きる。

4. 考察

子どもに指導援助する際の出発点は、子どもとの信頼関係である。子どもを受容し共感することの大事さは、今回のスケートの初心者指導の事例でも明確であった。保育科学生を指導助手としたが、子どもへの関わりかたがよく、子ども達の氷への慣れが早かった。指導者は、子どもの目の高さで対応して、氷の上での安全のために何かあれば子どもの身体を支えスキップを促す。これを繰り返すことにより子どもは指導者を信頼するようになる。実際、氷の上で自分で思うようにいかない時、安心しながら自分の身体を指導者に預け手取り足取り教えてもらうことの楽しさ喜びが指導者につたわってきた。リンクの外からの親のわが子に対する叱咤激励は、子どもにとってはプレッシャーになる。子どもがうまくできない動きに対し大声で指示する親がいる時には、自分が指導者なので黙って見守ってほしい、そしてうまくできたらほめてあげて下さい、とアドバイスする必要がある。

指導者は、子どもの動きや言動からその子の心身の発達を把握する必要がある。さらに、その時その時の子どもの興味関心そして意欲を見極める必要がある。集団指導では、子ども達それぞれと信頼関係を結び、これらの個人差を把握し、安全で無理のない指導援助を行うことが最も大切なことである。

氷上における子どもの活動状況と指導者の指導・援助

| | 陸上での動作 (準備運動) | 見立てあそ びのキーワード | 滑走につながる氷上 での子どもの動き | 動きのねらい と配慮点 | 結果・考察 (@) |
|---|--|---|--|---|---|
| 1 | <p><u>基本姿勢</u></p> <ul style="list-style-type: none"> • 気をつけ姿勢 • 両掌をペンギンの羽の様に体側で少し外側に開きバランスとる • 踵をつけたつま先を少し開く状態 | <ul style="list-style-type: none"> • ペンギン立ち • 棒立ち • ペンギン | <ul style="list-style-type: none"> • 静止状態において安定する • 正しい姿勢 | <ul style="list-style-type: none"> • バランスのとりにやすい姿勢を自身で体得する • まず第一に、しっかり立てることで恐怖感を克服 | <ul style="list-style-type: none"> • <u>子どもの様子から</u> • 楽しめた • できた • しっかり聞く • @恐怖感→楽しさ • @頑張ろうの姿勢 • @模倣学習 • @成就感 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> • 1の基本姿勢から膝と足首を曲げその場の足踏み運動 | <ul style="list-style-type: none"> • しっかりペンギン | <ul style="list-style-type: none"> • 氷上でブレード全体を使い、しっかりとフラットエッジでの足踏み | <ul style="list-style-type: none"> • 重心位置を足踏み運動をしながら確かめる • 自分の意思、力で不安定な氷の上を動く第1歩 | <ul style="list-style-type: none"> • @<u>指導者の立場から</u> • 言われたことをその通りにすると氷の上は怖くないことを伝える |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> • 2から左右の足を半歩ずつ全身移動運動 | <ul style="list-style-type: none"> • ペンギン歩き • トントン歩き | <ul style="list-style-type: none"> • 前進移動歩行 | <ul style="list-style-type: none"> • ブレードと氷の接点をとらえる • 氷上で移動することの楽しさを知る | <ul style="list-style-type: none"> • @<u>楽しくあそべる環境づくり</u> • @適切な靴 • スケート靴が合っているか? • 靴紐がしっかり結んでいるか? |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> • 3の運動に続けて両足を平行にし膝・足首の曲げ運動 | <ul style="list-style-type: none"> • 線路 • ドライブスー • 運転手さん | <ul style="list-style-type: none"> • 全身情力滑走 | <ul style="list-style-type: none"> • 両足フラットエッジ・踵重心を意識し氷上で移動する第1歩 • 空間移動の楽しさ | <ul style="list-style-type: none"> • @適切な服装 • 寒さ対策 • 危険防止のための帽子・手袋・etc • 動きやすさ |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> • 4の両足平行から左右の傾き運動(足の裏の内側・外側) • 両手は横に広げ左右曲がる方向を見る | <ul style="list-style-type: none"> • 運転手さんのドライブ • 飛行機 | <ul style="list-style-type: none"> • カーブ • 両足情力滑走で推進力を得、そのままの状態でのカーブ | <ul style="list-style-type: none"> • 左カーブ右カーブはそれぞれのエッジング(インアウト)と踵重心で推進力を得ることポイント | |
| 6 | <ul style="list-style-type: none"> • 3の運動でカラーハーフボールを手に持ち移動先に運ぶ | <ul style="list-style-type: none"> • 郵便屋さん • お荷物運び | <ul style="list-style-type: none"> • 落しても滑走のままにならないハーフボールを運ぶ移動運動 | <ul style="list-style-type: none"> • ものを持って運ぶという目的が明確になると移動運動のスピードが急に出来る | <ul style="list-style-type: none"> • @氷上でしっかり立ち自分で移動ができるようになったら道具音etcを使い楽しく遊べる環境設定必要 |